

KOKOCHI REPORT

大藤診療所
甲州市役所健康増進課

令和8年度 第1期

ACP(アドバンス・ケア・プランニング)を多職種でどのように支えるか

— 多職種連携でできること —

第1回 令和8年5月19日(火) Webミーティング

○ ACPについて感じていること

本人の想いと家族の想いが
違い、どうしても家族の想
いが優先されてしまう

死について語ることが
‘あたり前’の文化づくり
が必要

急変した時にどうするか？等
が、共有されないまま退院し、
入退院を繰り返す方がいる



本人の想いをどう引き出すか？その想いに寄り添うために…支援者の想いを語り合いました。

第2回 令和8年6月16日(火) 対面会議

○ グループディスカッション

日常の会話から 想いを拾う

日常の些細な会話から
本人の揺れ動く「想い」
を丁寧にひろいあげる。
マニュアル化できない対
話力と情報の継続的な積
み重ねが、本人の最期に
寄り添うために重要。

在宅⇄病院 想いをつなぐ

元気な時から自分の死生
観を共有し、支援者が想
いをつなぐことが重要。
信頼関係を築くために継
続的な対話と情報共有を
諦めずに続ける。

<参加職種>

医師、歯科医師、薬剤師
看護師、訪問看護師、
医療相談員、介護支援専門員
地域包括支援センター職員、
峡東保健所職員、市役所職員

ACP普及啓発 考えることはあたりまえ

地域イベントや小中学校で
の教育を通じた日常的な対
話のきっかけ作りが重要。
本人が「どう生きたいか」
を早い段階から共有し、継
続的に対話していく文化が
必要。

認知症 想いを確認するには

日頃からの関係構築と傾聴
の積み重ねが、家族の心理
的負担を軽減し、本人らし
い最期を支えるための土台
になる。
断片的な言葉を統合して本
人の人物像を可視化し、
チーム全体で共有し続ける。



第3回 令和8年7月21日(火) Webミーティング
○ 振り返りの会

多職種での共有の難しさは課題であるが、本人の想いを‘つなぐ’
ことをみんなが意識していることが大切であること、ACPについて考え
る機会を重ねていくことの重要性を再認識しました。